|  |
| --- |
| 学習のてびき　　　　　　 |
| 学習日　　／ |
|  　組 　号 |
|  |

説明的文章の要旨をまとめる

序論

**要点**…文章の中心となる内容・事柄のこと。

**要約**…目的に応じて、文章の大事な部分(要点)を短くまとめること。

**要旨**…話し手や書き手が述べようとしている内容の中心となるもの。また、それを短くまとめたもの。

要旨は、次の手順でまとめる。

1. 何が話題・問題になっているのかをつかむ。
2. 筆者の主張をつかむ。
3. 主張を支える根拠をつかむ。

要旨

①話題や問題提起となる部分

本論

③主張を支える根拠となる部分

②筆者の主張となる部分

野菜は根や葉、茎、花、実などの器官からできている。

　ネギは、緑の部分と白い部分があるが、両方とも葉脈があり、葉である。

　色が異なるのは栽培するときに、日光を当てる部分と当てない部分を作るからである。

　緑の部分と白い部分は、含まれる栄養分や味が異なっている。

何気なく食べているネギも、観察すると興味深い発見がある。調べると他の野菜でも新しい魅力が見えてくるかもしれない。



★説明的文章の要旨を捉える際には、段落の役割について注目してみよう。

【ポイント】

序論→話題提示・問題提起

本論→問い・答え＝主張を支える根拠

結論→筆者の主張

結論

私たちは、毎日いろいろな種類の野菜を食べています。野菜は植物ですから、根や葉、茎、花、実などの器官からできています。例えば、キャベツやレタスなら葉の部分を食べていますし、トマトやナスなら実の部分を食べています。

それでは、私たちが普段食べているネギはどの器官なのでしょうか。下に根がついているし、地面から生えているので茎のように思うかもしれませんが、そんなに単純ではありません。

　その疑問に答えるために、ネギをよく観察してみます。ネギは、根に近い方が白く、上にいくほど緑になっています。色はそのように部分によって違いますが、よく見ると緑の部分にも、白の部分にも同じ縦の筋が入っています。この筋が、ネギが植物のどの部分かを示す重要な鍵になります。実は、この部分は葉脈と呼ばれ、断面を顕微鏡で見るとチューブのような管状になっています。葉脈とは、植物の葉に存在して、水や養分を供給し、光合成によって作り出されたデンプンなどを運ぶ通路のことです。つまり、私たちが食べるネギは、上の方が緑で、下の方が白と色は違いますが、同じ葉の部分なのです。

では、なぜ色が異なるのでしょうか。じつは、色が異なるのは栽培の方法に理由があります。植物の緑は葉緑体の色です。葉緑体は日光に当たることで生成されます。ネギの白い部分は、土を盛り上げて、日光に当てないようにして育てられることで白くなっているのです。

　緑の部分と白い部分は、同じ葉の部分ですが、含まれる栄養分や味はちがっています。

　緑の部分は、太陽の光をしっかり受けて育つので、カルシウムやビタミンが多く含まれています。香りがよく辛みがあります。白い部分は、体を温め、食欲を増す作用のある硫化アリルという物質が多く含まれています。加熱することで甘みが増すのが特徴です。これらの特徴が料理によって使い分けられてきました。また、西日本では、緑の部分が多い青ネギ（葉ネギ）が好まれ、東日本では、白い部分が多い白ネギ（長ネギ）が好まれてきたという歴史もあります。

このように、ネギは、茎のようですが実は葉で、同じ部分にも関わらず色によって分けられる部位で味もちがうのです。普段何気なく食べているネギも、植物として観察してみると興味深い発見があります。他の野菜はどうでしょうか。いろいろと調べてみると、これまで気づかなかった野菜の新しい魅力が見えてくるかもしれません。

稲垣栄洋「ダイコンは大きな根？」『国語１』（光村）を基にプロジェクト研究委員会で作成